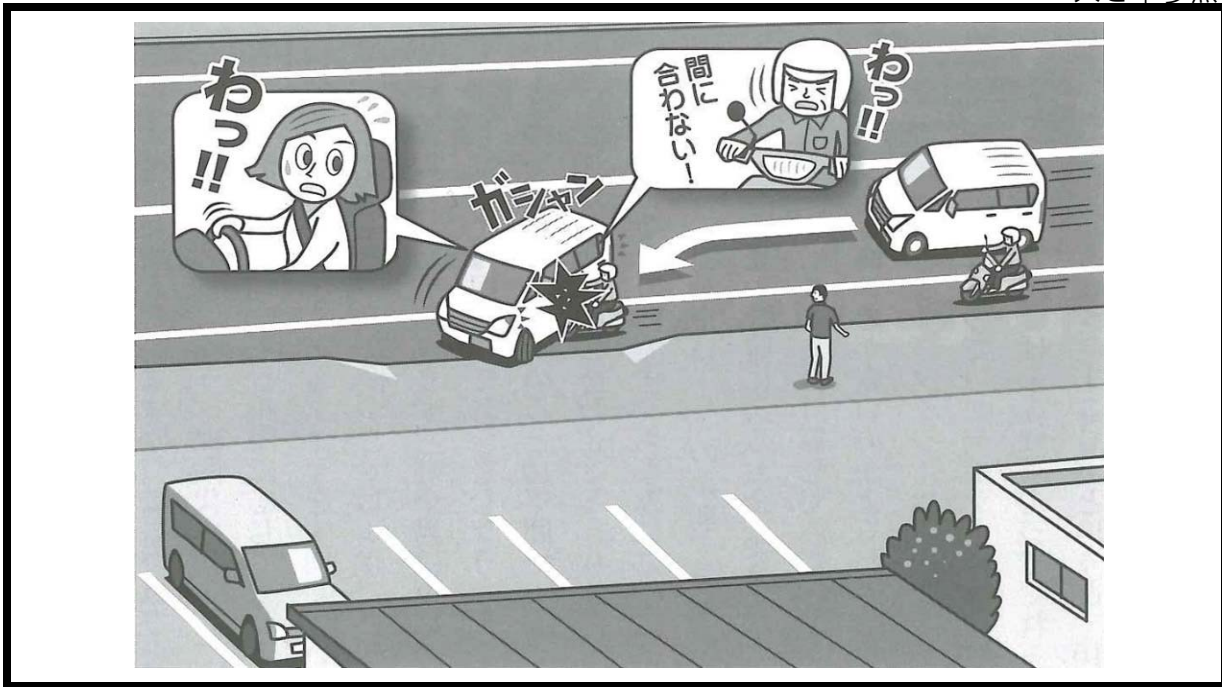


■事故の概況

人と車参照



事故類型：左折時

当事者A：軽自動車 20歳代 女性

当事者B：原付二種 40歳代 男性

■ 事故の概要

Aは、左右に歩道橋がある往復2車線道路を時速約40kmで走行していました。後方にはB車が車線左側を追従するように走行していました。Aは、道路の左側にある店に入ろうと減速し、ウィンカーを出すと同時に後方の安全確認もそこそこに左折を開始しました。その直後にドンという音と共に衝撃があり、初めてB車と衝突したことに気づきました。

一方、Bは、A車のすぐ後方左側を走行していましたが、突然A車が進路をふさぐように左折してきたので、急ブレーキをかけたのですが、間に合わず衝突してしまいました。この事故でBは肋骨を折り、全治2ヶ月の重傷を負ってしまいました。

■ 事故から学ぶ

この事例は、Aが追従してくる車両が無いと思い込み、安全確認もそこそこに道路外の駐車場に入ろうと左折をしたことが原因です。左折をするときは、前方、後方の安全確認を行い、あらかじめその前からできる限り道路の左側端に寄って、減速してからハンドルを切りましょう。特に、自転車、二輪車は見落としがちになるのでしっかり確認しましょう。

また、Bも車間距離を十分に取りA車の動静に注意して走行していれば、けがをせずに済んだかもしれません。二輪車に乗る方は、防衛の意味でも車間距離を長めに取り四輪車に近づかないように走行することが重要です。